

今井祝雄 展 「Clézio, Kôï, Article 9」



Galerie Ashiya Schule では、2016年5月7日（土）より、今井祝雄による個展「Clézio, Kôï, Article 9」を開催致します。

会期：2016年5月7日（土）－6月5日（日）

会場：Galerie Ashiya Schule ギャラリーあしやシューレ

兵庫県芦屋市親王塚町3-11 〒659-0016

12：30-18：30 水・木休廊

ライブ・パフォーマンス：5月7日（土）16：00～16：30

今井祝雄＋山田有浩（コンテンポラリーダンサー）

レセプション：5月7日（土）17：00～18：30

1960年代の「白」のレリーフ作品では、絵画と立体を越える表現を切り開き、1970年代には写真や映像等のメディアにも取り組んできた今井祝雄。形を変化させたり反復させながら、ひとつの手法として継続して取り組む表現の一つに「言の葉メッセージ」シリーズがあります。

1964年、高校生であった今井祝雄の初個展「17歳の証言」で発表したのは、白いレリーフの造形と、新聞紙のコラージュに数字とアルファベットを型紙で吹き付けた平面作品でした。以後、「言の葉メッセージ」に関連する作品は、1972年にはル・クレジオの小説『物質的恍惚』から「三つの見開き」の版画制作、1991年『住吉万葉歌碑』のパブリックアート、1996年琵琶湖・湖底土によるシルクスクリーン『ミズツチ譜』制作、2000年俳人・永田耕衣の文学碑制作と2001年耕衣の句による三原色版画へと継続されていきます。

本展では、活版印刷を使用した空刷りならびにフロッタージュを重ね合わせた文字作品を展示致します。

15年ぶりの発表となる「見る文字・読むことば」の作品に、是非ご期待ください。

なお、本展の開催に合わせて、ライブ・パフォーマンスを開催致します。

今年3月19日、東京都庭園美術館「Moving Image as Live Performance 2」で開催された今井祝雄公開パフォーマンス『時間の衣装／壁男』出演のダンサー・山田有浩氏とともに、ライブ・パフォーマンスを行います。

いま、この文章を読んでいるあなたは、文字に目を走らせてはいるけれど、文字そのものを見てはいない。読んでいるのである。読めるがゆえに見ることをしないのである。と、ここまで読んで今しばし、この文字を見ておられるかもしれない。が、また読み進めるうちに見ることを忘れ、読み続けていくにちがいない。(…)読める文章が読めなくなったとき、それは“見る”ことを要請する。(今井『白からはじまる—私の美術ノート』246頁、ブレーンセンター、2001年)

昨年、とある印刷所で60年前に製造された活版印刷機の埃を払って稼働してもらい、15年ぶりに文字による紙作品を制作した。憲法九条の120字を、重ね、ずらし、反転…。普通ならボツとなるさまざまな方法に加え、活版ならではの空刷りにフロッタージュを施したりして、読みづらく、あるいは判読不能な数々の作品ができた。

そもそも高校時代に現代美術を意識した最初の拙作は、文字がひしめく新聞紙の上にステンシルで数字を散りばめたものだった。ほどなく「具体」に参加して白いレリーフをつづけたが、同会が解散した1972年、愛読していたル・クレジオの小説から『三つの頁』ならびに『三つの見開き』を、2001年には俳人・永田耕衣の文学碑を手掛けた折の句を一字ずらし、五・七・五の3分節を3原色で、いずれもシルクスクリーンで刷り重ねた。

私の場合、変わらない興味や関心が形を変えながら、ひとつの手法として反復することが少なくないが、そんな時を隔てた「クレジオ、耕衣、九条」を、今回、一緒に並べることになった。いずれも印刷とはいえ、ほとんどエディションがなく、紙の上の出来事というべき読めない記述の集積である。目を凝らし、耳を澄まし、考えつづけることが困難な現代において、あえて、読めない、読みづらい字面を凝視することから何が読み解けるだろうか。

□プロフィール

今井祝雄 Norio Imai

1946 大阪市生まれ
1965 具体美術協会会員
1966 第10回シエル美術賞展1等賞受賞

<主な展覧会>

- 2016 Performing for the Camera(テートモダン/ロンドン)、個展:白のイベント×映像 1966-2016(Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku/東京)、ライヴ・パフォーマンスとしての映像(東京都庭園美術館)、個展:Retrospective—方形の時間(アートコートギャラリー/大阪)
- 2015 PROPORATIO(Palazzo Fortuny/ベニス)、Re:play 1972/2015—「映像表現'72」展、再演(東京国立近代美術館)
- 2014 個展(Galerie Richard/ニューヨーク)、Retrospective—影像と映像(アートコートギャラリー/大阪)
- 2013 Gutai:Splendid Playground(グッゲンハイム美術館/ニューヨーク)、個展(Axel Vervoordt Gallery/アントワープ;ベルギー)、個展:オン・ザ・ピアノ(ギャラリーあしやシューレ)
- 2012 「具体」ニッポンの前衛 18年の軌跡(国立新美術館/東京)
- 2011 個展-フレーム・イン(CAS/大阪)、Nul=0. dutch avant-garde in an international context, 1961-1966(スキューダム市立美術館/オランダ)、Masked Portrait II—When Vibrations Become Forms(マリアン・ボエスキー・ギャラリー/ニューヨーク)
- 2010 かたちのちから - 高度成長期の美術篇、大阪市立近代美術館(仮)心斎橋展示室
- 2009 ヴァイタル・シグナル—日米初期ビデオアート(ジャパソサエティ/ニューヨーク、ボストン美術館ほか~2010)、今井祝雄—白のうちそと(楓ギャラリー/大阪)
- 2006 ラディカル・コミュニケーション:日本のビデオアート 1968-1988(ゲティセンター/ロサンジェルス)
- 2004 結成50周年記念「具体」回顧展(兵庫県立美術館)
- 2000 今井祝雄-耕衣重奏(LADS ギャラリー/大阪)
- 1997 <私>美術のすすめ - 何故 WATAKUSHI は描かれたか(板橋区立美術館/東京)
- 1996 BACK & FORTH 今井祝雄・白の空間 1964-1966(ギャラリー16/京都)
- 1994 時間/美術 - 20世紀美術における時間の表現(滋賀県立近代美術館)、戦後日本の前衛美術(横浜美術館~グッゲンハイム美術館、サンフランシスコ近代美術館を巡回)

- 1993 具体Ⅲ 1965—1972(芦屋市立美術博物館)
- 1988 日本先端科技藝術展(台湾省立美術館)
- 1985 現代のセルフポートレート(埼玉県立近代美術館)
- 1983 現代美術による写真(東京国立近代美術館および京都国立近代美術館)
- 1982 第4回シドニービエンナーレ(オーストラリア)
- 1975 インパクトアート・ビデオアート'74(ギャラリーインパクト/ローザンヌ; スイス)
- 1972 3人の心臓音による街頭イベント(御堂筋/大阪)、映像表現'72(京都市美術館)、日本グラフィックアート展=The New Graphics from Japan (ICA、ロンドン)
- 1970 万国博美術展(万国博美術館/大阪)
- 1967 第5回パリ青年ビエンナーレ(パリ市美術館)
- 1966 第10回シェル美術賞展1等賞(東京、京都)、空間から環境へ(松屋/東京)
- 1965 具体美術協会会員(1972年解散まで全展出品)
- 1964 個展 - 17歳の証言(ヌース画廊/大阪)、第14回具体美術展(高島屋/大阪)

<パブリックコレクション>

芦屋市立美術博物館／大阪新美術館建設準備室／大阪府／滋賀県立近代美術館／兵庫県立美術館／宮城県美術館／アクセル・アンド・メイ・ヴェルモート財団／ゲティセンター／ラチョフスキー・コレクション (ダラス)

[展覧会情報]

展覧会名：今井祝雄展

会期：2016年5月7日(土) - 6月5日(日) 12:30-18:30 水・木休廊

会場：ギャラリーあしやシュール

〒659-0016 兵庫県芦屋市親王塚町3-11 Tel:0797-20-6629 www.ashiyaschule.com info@ashiyaschule.com